

新聞の読み方を考える
—「事実」の部分と「意見」の部分の色分けしよう—

開倫塾

塾長 林明夫

Q1:新聞を活用して、ものごとを分析する力や論理的な考え方を身に着けるにはどうしたらよいですか。

A :新聞の一つ一つの記事や文章をよく読み、「事実」の部分と「意見」の部分、マーカーや色鉛筆を使って色分けすることをお勧めします。

Q2:えっ、どういうことですか。

A : (1)新聞の多くの記事や論説などは、読者に読んでもらいたい「事実」を5W1Hの形で書いてあります。

(2)新聞社は、読者に伝えたい「事実」を5W1H、つまり、①WHEN(いつ)、②WHERE(どこで)、③WHO(だれが)、④WHAT(何を)、⑤WHY(なぜ)、⑥HOW(どのように)の形で報道しています。

(3)新聞は「事実」を5W1Hの形で伝えるほかに、「この事実を踏まえて、どのように考えるか」「これからどうしたらよいか」という、「事実」についての「意見」も読者に伝えています。

Q3:新聞の記事や論説には、「事実」の部分と「意見」の部分があるということですね。

A : (1)はい。その通りです。

(2)私が皆様にお勧めしたいのは、5W1Hで書いてある「事実」の部分と、それに対する「意見」の部分、マーカーや色鉛筆で色分けすることです。こうすると、面白く素晴らしい勉強ができます。

(3)特に、「意見」の部分は、新聞社としての「意見」の表現とも言えますので、参考になります。

Q4:どのような記事や論説を用いて、「事実」の部分と「意見」の部分の色分けすればよいのですか。

A : (1)一番面白いのは、各新聞社が毎日掲載する「社説」です。

(2)社説は、地域や日本、世界で我々が考えなければならないテーマについて、新聞社としての考え方をまとめて示した文章です。このような「事実」には、新聞社としてこのように考えるという「意見」を表明するものです。

ですから、その新聞の読者としては一番熱心に読み、自分でそのテーマについて考えるときの参考にすべきものです。

(3)そこで、社説を使って「事実」の部分と「意見」の部分、マーカーや色鉛筆で色分けしましょう。大切なことが書いてあったら、自分の考えも書き加えながらノートやカードに書き抜くことをお勧めします。

Q5:なぜノートやカードに大切なことを書き抜くとよいのですか。

- A : (1)新聞を毎日読んで「事実」の部分と「意見」の部分の色分けすることで、このような「事実」にはこのような「意見」や考えもあるということを学び、身に着けることができますからです。
- (2)「これはちょっとおかしいのではないか」「もっと違うようには考えられないか」という「批判的思考(critical thinking、クリティカル・シンキング)能力」を身に着けるのに役立つからです。
- (3)ものごとを「自分で考える力」を身に着けるのに役立つからです。

Q6:「批判的思考能力」と「自分で考える力」ですか。面白いですね。

- A : (1)はい。これらに加えて、事実をいろいろと分析して考える力(分析的思考能力)、こうだからこうだと理詰めで考える力(論理的思考能力)も身に着きます。
- (2)このように、一つの出来事を深く考えた上で自分の意見を取りまとめ、次にどうしたらよいかを考えるとときにも役立ちます。
- (3)特に、一つのテーマについて多様な人々と議論する場面で、相手の立場やものごとについての考え方をよく認識し、「理解」した上で自分の意見(考え方)を述べるときに役立ちます。
- * アクティブラーニングの授業には欠かせません。

Q7:最後に一言どうぞ。

- A : (1)エッセイやレポート入学試験の作文や論文を書くときには、新聞の「事実」の部分と「意見」の部分の色分けした記事を切り抜いたスクラップブックが極めて有用です。
- (2)1日に1つでも2つでもOKですから、これぞという記事や社説などを「事実」の部分と「意見」の部分の色分けした上で切り抜きましょう。そして「スクラップブック」にのりで貼り付けて自分の意見も書き添え、繰り返し読み直しましょう。
- (3)これを入試の当日まで続けると、必ず素晴らしい結果が得られます。入学試験だけでなく、すべての試験に素晴らしい結果をもたらしますよ。
- * 英語が得意な人は、ぜひ英字新聞でも挑戦を。